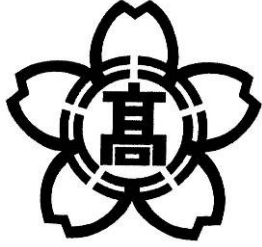


# 第19回海洋立国推進功労者表彰受賞者

## 2. 海洋に関する顕著な功績 分野

### 水産振興 部門

|       |                                                |                                                                                     |
|-------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏 名   | くまもとけんりつあまくさこうとうがっこう か が く ぶ<br>熊本県立天草高等学校 科学部 |  |
| 所 属   | —                                              |                                                                                     |
| 功績の概要 | 地球温暖化対策としてアマモの生育研究を継続、地域の環境保全意識向上に貢献           |                                                                                     |

### 功 績 事 項

熊本県立天草高等学校は、平成 29 年度に文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、生徒主体の研究活動や探究型授業などを実施している。科学部の活動は SSH 事業の一つであり、令和 7 年度は、3 学年合わせて 32 名で活動しており、顧問 4 名のサポートの下、生徒が設定したテーマに沿って研究を行っている。令和 7 年度全国豊かな海づくり大会において「アマモの生育と二酸化炭素吸収に関する研究、アマモ専用肥料開発の研究」で農林水産大臣賞を受賞したが、水産高校ではなく、普通科の高校が農林水産大臣賞を受賞したことは快挙である。

1. 海面上昇予測を背景にアマモによる CO<sub>2</sub>吸収に着目し、アマモの生育に関する研究を行った。平成 30 年度から分布状況調査や先行研究調査を行い、発芽率が 3 割程度であることを確認した。令和元年度以降は、ナノバブル水での栽培実験で成長促進効果を確認した。令和 3 年度以降は底質や水温・塩分の影響を研究し、魚糞による生育促進効果を確認した。令和 6 年度からは魚糞に加え、カリウムの多い肥料を加え、魚糞に含まれる窒素の分解を促進する菌を投入した実験を行い、アマモの専用肥料の開発に取り組んでいる。先輩の研究を後輩が引継ぎ、発展させ、実績を積み上げている。
2. 令和 5 年度からは、天草市が設置したブルーカーボン推進協議会に参加し、普通科高校ではつながりの薄い天草漁協や漁業者と連携を図ることで、本渡港沖の共同調査を実施した。結果として、海底泥の分析により粒径や貝殻片とアマモ分布の関連性を示唆することができ、次年度も関係者と協働で水流計測を計画している。高校生・行政・地元漁業者の協働により、沖合アマモ場の新知見を得て、定植地選定に重要な基盤を築くことができた。
3. 天草を守るために何かをしたいという思いから、調査・研究を行うだけでなく環境保全の重要性を一般に発信することが必要と考え、令和 3 年度から天草市と共催で年 1 回「環境シンポジウム～アマプロ (Amakusa Protect Project)」を開催している。その中で、講演や研究発表、天草市長や地域の団体を交えたパネルディスカッションを行い、地域住民の環境保全意識の向上に貢献している。
4. 動画制作・配信を通じて小中学生への啓発も行っている。こうした取組を通じて同校卒業生の多くは環境分野へ進学、後輩指導や地域調査を継続しており、環境保全に尽力する人材育成にも貢献している。



共同調査



パネルディスカッション